

2009

広報

# おばま 11

《表紙》

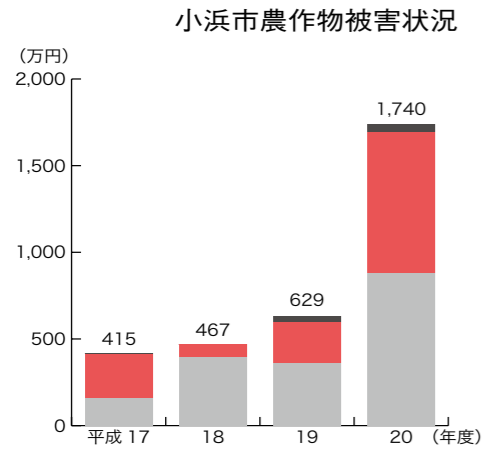
10月10日、11日に若狭姫神社で行われた「千年杉のライトアップ」。

今年で5回目を迎えたライトアップは、遠敷祭に併せて催され、奉納時の神楽や稚児舞、大太鼓を幽玄の世界へと導いていました。

(10月10日)

【特集】 鳥獣害をみんなで防ごう

# 鳥獣害をみんなで防ごう！



被害状況 (平成20年度)

獣種	被害総額
イノシシ	878万円
シカ	818万円
サル	42万円
その他	2万円

その他…アライグマやハクビシンなど

わたしたちが人里に降りるようになったのは、「地球温暖化で雪が少なくなり、生息範囲が拡大した」「スギ、ヒノキ林などの人工林でエサが減った」「担い手不足で耕作放棄地が増えた」からなのよ



有害鳥獣による被害は、増加の一途をたどっています。平成二十年度の被害総額は前年度と比べ約二・八倍の約一千七百四十万円にもなりました。獣種別では、イノシシとシカが多く、特に平成二十年度のシカによる被害は前年度と比べ、二倍以上の被害総額となっています。

## ■被害状況は？



この田んぼ、稲穂がほとんどない!?



農林水産業への被害が深刻で、特に農産物については、田植え時期の水稻苗(下写真)や稲穂を食べたり、のり面やあぜを荒らし回ったりしています。また、畑でも野菜を食べる被害がでています。

そのほかにも

- 樹木の皮はぎ
- 自動車との接触事故
- 建物の天井裏へ定住
- 建物(柱)の損傷
- 山間部を荒らすため、土砂災害のリスク

など、地域社会に与える影響は多大です。

また、毎年多くの人を楽しませていた大戸区のひまわり畑も、左写真のように今年も数本しかひまわりを見ることができませんでした。



## ■どんな被害があるの？

県内各地で増加する有害鳥獣による農産物への被害は、これまでの対策にもかかわらず、増加の一途をたどっています。このことから営農意欲が低下し、耕作放棄地が増加するなどの悪循環にもつながっています。

また、被害は農林水産業だけではなく、一般車両との接触事故や文化財の破損、山間部の斜面を荒らすことによる土砂災害への懸念など、地域社会への深刻な影響をもたらしています。

市では七月十六日に農林水産課内に「鳥獣害対策室」を設置して、被害の拡大防止、有害鳥獣の捕獲などに取り組んでいます。しかし、行政の防止、捕獲事業だけでは、鳥獣害をなくすことはできません。集落と行政が一体となることで鳥獣害を防止することができます。

そこで、今回は被害状況から被害にあわない対策まで、どうしたら鳥獣害を防ぐことができるか、考えてみましょう。

■市ではどんな対策をとっているの？

市では、鳥獣害対策として、次のようなことに取り組んでいます。  
 九月補正で四千七百万円を増額し、獣の侵入を防ぐため山際を間伐してネットを張る「緩衝帯」の設置や

アライグマやハクビシンなどを駆除する「捕獲隊員の雇用」、猟期中のシカ捕獲に対する「報償費の支給」をすることにしました。  
 また、恒久金網柵の設置範囲を広げたり、有害鳥獣

の捕獲報償費を増額したりするなど、従来から実施している対策も拡充しました。  
 これらの新たな対策により、今まで増加してきた有害鳥獣による被害が減少すると見込んでいます。

これまで取り組んできた鳥獣害対策

- 3戸以上の受益農家を対象に、電気柵、ワイヤーメッシュなどの材料費を補助
- 追い払い煙火（735円のうち435円）の補助
- 捕獲おりの整備
- 狩猟免許講習費の助成
- 鳥獣害に関する説明会の開催（アライグマ講習会の開催）
- 恒久金網柵の設置《補正により範囲拡大》（獣の侵入を防ぐため、高さ 2.1 柵の金網柵を設置します）
- 有害捕獲報償費《補正により増額》（有害鳥獣の個体数を適性数にするため）

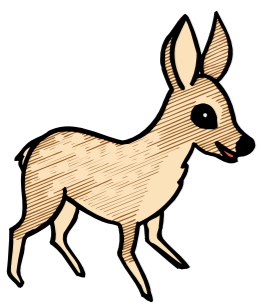
新たに追加となった鳥獣害対策

- 緩衝帯の設置
- 捕獲隊員の雇用
- 猟期中の捕獲報償費（シカのみ）

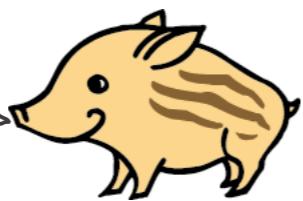
■市ですべて解決してくれるの？

補正予算で行政の防止、捕獲事業が拡充しても、鳥獣害がなくなるわけではありません。

集落内で次のようなところはありますか？その場所が、知らず知らず餌付けをしていることになりませんか。今一度集落内を見渡してください



畑に行くと餌が落ちていた。形の悪い果実も残っている。この畑は最高の餌場だわ



あの荒地（耕作放棄地）は、身を隠せて便利だな。荒地がなくなったら、人里には近づけないな…

- 落ちた果実や出荷規格外の作物を畑に放置していませんか？
- 生ごみなどを山や畑に放置していませんか？
- 稲刈り後の第二の穂（ひこばえ）を放置していませんか？
- 近くの耕作放棄地は管理されていますか？

集落内でひとつでも行われていれば、ほとんど鳥獣の行動範囲は広がります。

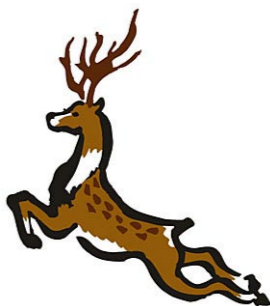
大切なのは、鳥獣害に合わないための集落作りです。

それには、まず集落内の被害状況を確認、鳥獣の特徴や習慣などをみんなが勉強し把握してから対策を練ります。次に前述のような餌を集落内に放置しないよう徹底し、集落ぐるみで管理、監視を行う必要があります。

また、市では今後、集落を中心とした鳥獣害に関する説明会などを開催し、適正な捕獲体制を充実をさせていただきます。

集落と市が連携して鳥獣害対策に取り組んでいけば被害は減っていきます。そして、集落がやがて地区、市全体と広がっていき、より確実なものとなります。鳥獣害対策は個人一人が心がけても効果はなく、集落全体で取り組むことが重要なのです。

対策を練るなら、まずは相手を知らないと



Q 電気柵を設置する場合、高さはどれくらいが効果的でしょうか？  
 ～イノシシとシカは、それぞれどれだけ跳ぶの？～

A イノシシは1柵以上、シカは2柵以上も跳ぶことができます。このことから、シカが出没するところに電気柵を設置する場合、2柵以下の高さでは効果がないことになります

Q 同じ場所でイノシシの被害が繰り返されるのはなぜでしょう？

A イノシシは記憶力が抜群にいいからです。一度安全だった畑は次からも狙われ続けます



獣害防止の電気柵、誤った設置をひいていませんか？

電気柵をアスファルト付近に設置しても、アスファルト舗装が通電を阻止して効果が得られません。

効果があるのは、イノシシなどの足が土の上にある状態です。設置するときは、アスファルトに足がかからない場所に設置しましょう。



柵が低いとシカは飛び越えていきますが、柵の下があいているとイノシシは潜って中へ入っていきます。

イノシシの目線で見ると、けっこう下に隙間があるものです。

■問い合わせ 農林水産課

鳥獣害対策室

☎内線 285